

新春のごあいさつ

岡山県畜産会会長 花尾省治

昭和五十四年の新年を迎えるにあたり
初春のお慶びを申し上げます。
皆様さぞかし、輝かしい希望をもって
この佳き年をお迎えになったことと存じ
ます。

昨年の一年を振り返ってみますと、わ
が国経済はついに低迷を抜けきれず、ド
ル安、円高不況の続く中で、国際収支の
大中黒字、これにからめて、諸外国から
の農産物、酪製品、牛肉、オレジン等の
輸入、あるいは、農畜産物の完全自由化
関税の撤廃を迫ってくるなどの外圧で、
わが国農家に与える打撃も大きかったの
ですが、国内においては、米の生産調整
が農業経営に対して与えた不安感も又一
層強められたといえましよう。

このような状況の中で、わが国畜産も
まことに多事多難の年でありました。

まず、酪農にとりまして最も大きなこ
とでもいえることは、六月末日に決ま

りました加工原料乳の保証価格でありま
す。これが据え置かれたことは「何一つ
値上げする要因がない」ということから
でした。

本県における生乳生産では、昨年の夏
は猛暑続きでしたので、六月～八月の間
は、対前年比一〇三・一％の伸びであり
ましたが、九月に入り、後半の冷涼な気
候で牛の夏バテが一挙に回復したことに
よって前年比一〇八％に近い意外な伸び
をしました。このことは、エサの二度に
わたる値下げ、多頭化に伴う機械化に
よる省力化、高能率化が進められたうえ
に、飼養管理とくに飼料給与技術の大幅
な改善などで、酪農家の意欲の向上によ
り従来と異なって、牛体の回復が目み
えて早くなったことによるものであります。
いずれにしても、今後生乳生産は
順調に推移し、第三次酪近計画の生産指
標を上廻る伸びを示すことと思われま
す。また、昨年の米の生産調整に伴う水田
利用再編対策等から特定作物としての飼

料作物の作付けが大中に伸び約一、九二
一ヘクタールに及んでいます。これら
の安定的定着化を図ることによって、輸
入飼料依存の酪農経営を幾分なりとも
国産飼料依存度を高め、外圧に耐え得る
経営の安定化に努めねばなりません。

とくに、牛乳の生産調整が話題になり
つつある兆しが見えるときにおいて、そ
れに耐える経営の内容充実によって生産
コストの低減がはかれる体制の強化が急
を要することになると思われます。

また、これに対するもつ一つの対策と
して国内自給の生乳ならびに数々の酪製
品の消費拡大をはかる必要があることも
に乳製品輸入を規制する対策がとられね
ばなりません。

さらに酪農以外の畜産物の生産につ
きまして、昨年の春以来、一般にその生
産量は国内の消費量をやや上廻るよう
な傾向が見られていますが、これも低成
長の経済情勢がなされるものと思われ
ます。このため、まず鶏卵、ブロイラー
の価格が値下りとなり、秋以降になって
豚肉価格も安定基準価格を二年半振りに
割り込んで来ましたが、しかし、どの畜種
も同じですが、八月の飼料価格の低下に
支えられて、生産コストを割るまでには
至っていないようですが、年末年始にか
けての消費増大が見込まれ、さらに、輸
入肉とのかね合いがやや楽観視されてい
るものの、一般消費増大に見合わせ生産

拡大は危険であるとの見方から、子豚の
生産抑制の通達が出されるという情勢に
あります。また、牛肉については、輸入
肉のストライキによる遅れもあって高値
で推移し、和牛肉、乳牛肉ともに中心価
格を上下しています。

これらの消費動向も、昨年八月の総理
府の家計支出調査によると、牛肉の支出
金額が一七％増で、豚肉の二％、鶏肉の
七％を上廻っているとのこと。この
傾向がいつまで続くのかは推測はでき
ませんが、いずれにしても、畜産振興の
ためには畜産物の消費拡大が先行すべ
きでありましようが、それにもまして、生
産者は、肉価相場によってその経営が左
右されないような生産コストを低める努
力が最も大切なことと思えます。

畜産経営は生き物を取り扱うものであ
るだけに、非常に難しいものであります
が、新年を迎えられて、昨年を振り返り
その反省をもとにして、新しい希望に燃
えて、この一年を乗り切る決意をお互い
に固めて行きたいと念願するものであり
ます。

今年も佳い年でありましようお祈りい
たしますとともに、一層のご多幸とご健
闘を心からお祈りして年頭のご挨拶とい
たします。

年頭にあたって

岡山県・畜産課長 三村 剛

新年、あけまして、おめでとうござい
ます。皆様方には、新たな抱負と希望
をもって、新春をお迎えのこと、心か
ら、およろこび申し上げます。

昨年、中国縦貫自動車道の県内貫通
や、待望の瀬戸大橋着工など、県民にと
って、明るい話題が多かった反面、円高
による不況や、中小企業の倒産、サラ金
地獄など、特に経済面での暗いニュース
の多い年でもありました。

畜産にとりまして、一昨年につづい
て、飼料価格が値下がりしたことや、急
性伝染病の発生がなかったことなど、畜
産の経営環境も、比較的平穏に推移して
参りましたが、一方では、経済動向を反
映した畜産物消費の伸びなやみのほか、
牛肉、乳製品等の輸入拡大のための外圧
や、関税引下げ要求に見られたように、
畜産をめぐる内外の情勢には、予断を許
さないものがありました。

又、昨年は県政にとって、総合福祉計

画の後期実施計画の第二年度であり、か
つ、新しい時代に対応した農業に再編整
備する、いわゆる水田再編対策のスター
トの年でもありましたが、畜産の分野で
も、ニュージランド産、ジャージー種雌
牛三八頭の赤山地域への導入や、北海道
桜野牧場で、は育育成された乳用雄牛牛
の県内肥育農家への移入開始、家畜畜産
物衛生指導協会の強化、津山地区公社畜
産基地建設事業の着手、鶏卵供給調整
のための液卵施設の設置など、新しい息
吹を感じさせる事業も実施されました。

本年は、岡山県総合福祉計画の基本理
念である「豊かな農村の建設」「魅力あ
る農林漁業の確立」を基本目標に、最近
における畜産物需給や価格動向に対処し
ながら、畜産農家の経営安定と県民に対
する良質な畜産食品の安定供給対策を充
実させて参りたいと考えております。な
かでも、中国山地開発構想とも関連する、
草地や林地等との一体的な利用による里

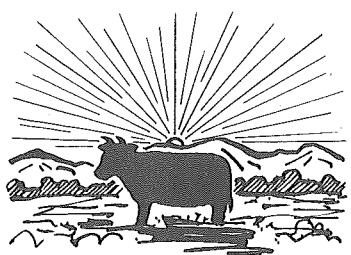
山の開発整備、肉畜の生産振興と食肉流
通センター構想の具体化については、特
に農林行政の重点施策として推進する方
針であります。又、水田再編対策の関連
事業として実施される自給飼料生産総合
対策事業や飼料銀行設置運営事業、土づ
くり、草づくりの一環でもある耕種農家
との連携強化や、畜産環境改善のため
の施設整備等にも、更に意欲的に取組ま
なければならぬと考えております。

畜産の技術開発と指導体制についても、
今年、特に、試験場の研究課題を見直
し、農家経営に密接なかわりをもつ試
験研究に重点を指向し、開発された新技
術の普及啓蒙を通じ、畜産農家の経営合
理化に寄与していただきたいものと念
願しております。昭和五十四年は、家畜保
健衛生所施行三十周年に当たっています。
家畜伝染病や、伝染性疾病の防止は、勿
論のこと、家畜飼養衛生環境の改善や、
安全で良質な畜産物の生産促進・自衛防
疫の推進等をめざし、畜産農家の皆さん
や、市町村、農協等の指導者の方々の理
解と協力のもとに、連携いを密にして健
全な畜産発展の基盤をより強力なものに
して参る必要があるかと思えます。

景気浮揚・需要の拡大・生産・流通の
合理化など、畜産をとりまく情勢にすべ
て明るい展望が約束されているわけでは
ありませんが、今後とも畜産が農業の成
長部門として食料自給力の向上に大きな
役割と期待がかけられていることは明ら

かであり、畜産経営、合理化のための一
層の創意工夫が痛感されます。

新年は、等閑湾干拓地の営農計画や、
吉備高原の広域的な畜産開発をねらいと
する中部畜産基地構想の推進など、将来
の岡山県畜産に大きな影響を及ぼす大規
模な計画を明らかにさせる年でもありま
す。新年は、きびしい試練の年となるで
しょう。しかし、畜産関係者ともども畜
産の健全な発展と豊かな農村建設をめざ
し、精進して参りたいと思っております。
皆様方の御健勝と御発展をお祈りする
とともに、新しい年が畜産にとって、す
ばらしい年であることを念願して、す
年頭の御挨拶といたします。



飛驒高山の和牛

阿新農業改良普及所 山田晃示

中国山地の山ふところ、阿新地方は、和牛のふる里として肉用牛が飼われておりますが、去る十一月六日より三泊四日の日程で、新見市内の肉用牛飼育農家五十三名と共に岐阜県高山地方の肉用牛を視察研修しましたので、その概況をお知らせしたいと思います。

一、子牛セリ前に 共進会を開催

高山子牛セリ市場は、三、五、七、九、十一、十二月の年六回開設されその入場頭数は二五〇〜三〇〇頭であり、誰れにでも良い牛が安心して購買出来るようセリ直前に子牛共進会が開催される日程は次の通りです。

体重測定（八時〜九時）→審査（上・中・下・格外 九時〜十一時）→審査（優・一・二・三等区別）→セリ市場へ。

体重測定された牛は県種畜場の審査員に



下審査の風景

より、九時より名簿順に審査され市場の広場に四段階に分けて展示され、更に比較審査され優等賞（紫色）、一等賞（黄色）、二等賞（桃色）、三等賞（青色）、格外オス（緑色）、格外メス（赤色）、とそれぞれ順環により色分けされ、十一時よりセリ市名簿順にセリが行なわれています。

二、子牛、枝肉価格 共に優れている

飛驒地方の和牛は、昭和三十三年頃より肉質改良に重点をおき、以来二十年間兵庫の田尻系十四頭のほか広島の高橋系等の種雄牛を導入し、但馬系の欠点を補いつつ計画交配をすすめその結果生産子牛の肉質と増体に大きな成果を挙げて来

● 飛驒牛の位置 1) 子牛価格

区分	高山市場平均	全国平均
販売金額	338,887円	275,367円
平均単価/kg当り	1,263円	850~1,000円

2) 肉牛枝肉格付規格(%)

飛驒牛平均			全国平均		
上	中	並	上	中	並
40	45	15	30	40	30

(52年実績岐阜県経済連高山支所)

一月号目次	
新春のあいさつ	花尾省治 1
年頭にあたって	三村剛 1
飛驒高山の和牛	山田晃示 2
第五回和牛の日	片山秋坪 4
豚の種利用	養隊・攻めと守り 5
畜産コンサルタント指導簿より	ヨーロッパ視察団に参加して 7
花尾省治	花尾省治 10
故藤原若彦氏叙職	酪試ファーマーデー 12
理想肥育飼養の一指標	小椋雅弘 13
盆栽あれこれ	盆風人 15
あとがき	

ました。枝肉上物規格率が全国平均を上廻って高く評価され、子牛のセリ市場価格も全国ベスト三に入っており、更に枝肉格付中物以下の絶無を期し、上物率八〇〜一〇〇%の全体レベル向上を固定するよう努力されております。

三、徹底した指導の一貫 性と系統固定の推進

和牛経営は、肉質の良否が肥育農家のみでなく、ひいては繁殖農家の採算性をも左右するものであり、今後は肉質に重点をおいた改良を行うことと同時に発育、体型ともに優れた肉質のある牛を生産することが重要であり、農家を中心に関係機関が一体となり次の事項に取り組みられております。

岐阜県の肉用牛は養育ラインの雌牛に体質ラインの種雄牛を交配して、表現型を主体に選抜改良を行って、その結果発育及び体型の改良が進み産子に対する評価は高まったが肉質において齋一性を欠くきらいがあるとのこと。

このため、県内繁殖雌牛の中から優良な牛を選抜グループ化し、このグループ内において計画交配し、その産子の肉質能力を測定して、その成績により優良な雌牛を保留し、グループの世代を更新している。これを反復することにより、岐阜系統牛として固定し、肉質、発育及び体型ともに優れた齋一性のある岐阜牛の生産に努力がはられております。

◎肉用牛の改良 についての交選

- 一、田尻系を基礎とした養育重点の時代
- 二、深川系の血統を導入した肉用体形成期
- 三、田尻一門芳系を導入しての肉質改善期
- 四、岡山中屋系による後駆の改良期
- 五、茂金系系系による肉質安定期
- 六、和牛交配指針の策定……岐阜牛系統固定推進事業を設定。

◎系統固定基礎牛の 具備すべき特徴

- 一、皮膚、被毛の良いこと。
- 二、尻の型状の良いこと。
- 三、腿の厚さ、幅が適度なこと。
- 四、肋張りの良いこと。

◎系統固定基礎牛の 選定基準

- 一、当該牛の父方、母方の五代祖の血統が判明している。
- 二、産子に遺伝的改良形質が出現していない。
- 三、登録協会の登録体格審査により七十八点以上得点している。
- 四、産子は子牛市場においてすべて二等賞以上に入賞し、その過半数は一等賞以上である。

岐阜牛系統固定目標

理想とする和牛の

3つの条件

系統遺伝因子が基礎

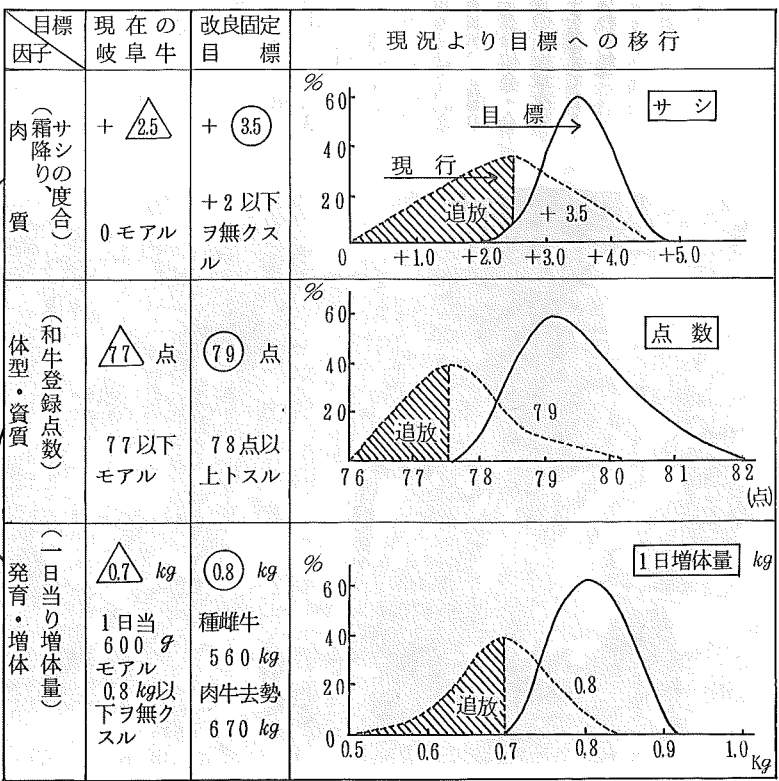
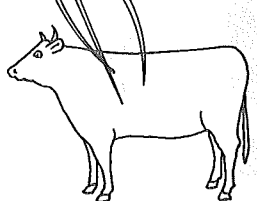
肉質の良いこと

脂肪のサシ。肉セン維
柔軟かい。美味。芳じゅん。

0 +1 +2 +3 +4

プロポーション、
肉量の良いこと

大きくなること



◎基礎雌牛 選定選抜留意事項

- 一、資格の条件
 - (一) 高等登録牛……七十八点以上
 - (二) 原種牛……七十八点以上
 - (三) 本原登録牛……七十九点以上
- ※(一)(二)のいずれかであって産子成績優秀産子は子牛市場、品評会において半数以上が一等賞以上である。

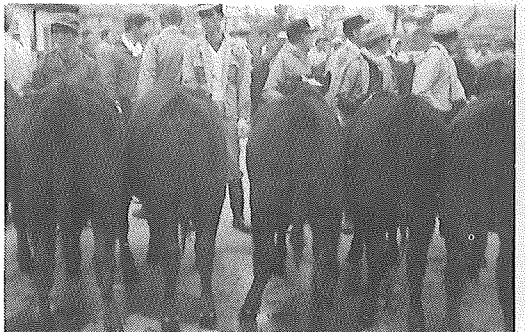
◎血統の条件

- 一、基礎牛は三代祖以内で体積系統、資質系統の双方が必ず入っていること。
- 二、純粹の資質系統の場合は体質が豊かであること。
- 三、連産性の高いこと
- 四、体高は一二五センチメートル以上
- 五、老令牛で将来産子見込みのうすいものは除く。

前述の事項を中心に岐阜牛系統固定のため推進されている。

四、岐阜牛の改良固定の目標

- 肉質 体型 発育等次の三項目を重点に指導されている。
- ※肉質(霜降り、サシの度合)現況①二・五……④三・五(④二以下無)
 - ※体型・資質(和牛登録点数)現況(七十七点)……七十九点(七十八点以上トス)



比較審査

※発育・増体(一日当り増体量)現況
○・七キログラム……○・八キログラム(○・八以下無)

五、むすび

乳用雄牛肉は比較的肉質が均一で、個体間の価格差が少いが、和牛肉においては格差があり、格付中以下の肉質のものは乳用雄牛肉程度の価格で取引されるため、肉質の良否が和牛肥育の経営に大きく影響し従って、国内のほぼ1/4相当量と推定される。和牛肉全体の肉質向上こそ極めて重要であり、和牛は「質で勝負しなければならぬ」と生産農家を中心に指導機関が一体となって肉用牛と取り組まれております。

第五回和牛の日

第二中山号・第十一松田号顕彰碑建立



第五回和牛の日が十一月三十日に、和牛試験場・大佐中央公民館を会場に開催された。当日は天候にも恵まれ、二百人以上の和牛研究会々員・関係者が参加した。当日は名種雄牛「第二中山号」・「第十一松田号」の顕彰碑の除幕式それに伴ない、顕彰碑建立記念講演が、全国和牛登録協会・会長の上坂章次先生を迎えておこなわれた。

酪試のページ

豚の雑種利用について

養豚部長 片山秋坪

雑種の普及状況

近年本県の養豚は雑種化が定着し、県内産肉豚の大部分は雑種豚で占められている。これは昨年四月の県畜産課統計(表一)の、県下種豚飼育頭数の品種別内訳によれば、その五一%が雑種であることからもうかがわれ、純粋種(ランドレース三五%、大ヨーク八%)を大きく上回っている。又種雑豚ではハンパシャアが年々増加し三八%と最も多く、ランドレース二九%がこれに次いでいる。つまり、最近の豚の雑種繁殖方式は、ランドレース又はその雑種を母系に、ハンパシャア雄を交配するものが主流となつてきていることを示すものであろう。

雑種利用のねらいは、言うまでもなく雌系の繁殖能力と雄系の産肉能力を生かし、さらに雑種強勢(ヘテロシス)を加えて、強健性、発育、飼料効率を高め

表1 岡山県の種豚品種別飼養状況 (頭)

年	性別	頭数	L W H D				雑種
			L	W	H	D	
50年	雄	547 (100)	209 (38)	86 (16)	138 (25)	14 (3)	100 (18)
	雌	9,802 (100)	3,572 (36)	603 (6)	460 (5)	16 (0)	5,151 (53)
53	雄	748 (100)	218 (29)	89 (12)	284 (38)	93 (12)	64 (9)
	雌	9,826 (100)	3,429 (35)	820 (8)	400 (4)	142 (1)	5,035 (51)

注：各年4月1日現在県畜産課調べ、()内は100分比

る生産性の向上にある。

このようならいからすれば、本県の養豚の流れも一応は全国の動向と同じく、豚肉需要の動きに対応した、上質肉を追求する生産体制への転換が進みつつあるものと思われる。

しかしながら、肉豚生産の個々の事例でみた場合には、上物率の低下や、品質のバラツキ、繁殖性能の低下などを耳にすることもあり、これらは飼育管理技術水準もさることながら、雑種利用をあまりにも安易に考えているとみられるものが少なくない。そこで次に雑種利用の方式なり考え方について少し述べてみたい。

雑種利用の考え方

一 雑種強勢

雑種強勢の効果とは、子がその両親の持つ基本的な能力の平均以上の能力を示す場合に、その上乗せ分を指して言われるものである。

遺伝力と環境が生産に及ぼす影響は表二のとおりであり、遺伝力の強い形質ほど両親の能力がそのままに現われ、雑種強勢の影響は小さく、遺伝力の弱い形質ほど雑種強勢が強く現われる。つまり雑種強勢が発現する程度は、多くの遺伝形質に一樣に現われるものではなく、おおむね表三・表四のような順に発現するといわれる。強健性で最も強く現われ、飼料要求率では必ずしも明瞭でなく、屠体の形質ではまず雑種強勢の

表2 遺伝力と環境が生産に及ぼす影響

形質	遺伝力できまる	環境できまる
枝肉の長さ	65%	35%
脂肪の厚さ	50	50
ハムの大きさ	40	60
飼料要求率	35	65
発育	30	70
離乳時体重	15	85
産子数	10	90
育成率	10	90
生時体重	5	95

(76. 松下)

表3 ヘテロシス発現の程度

強く現れるもの	強健性 子豚の発育、育成率 肉豚の肥育初期の増体
幾分現れるもの	産子数 子豚の発育斉度 肉豚の飼料効率 "の肥育後期の増体
現れないもの	屠体形質(脂肪の厚さ、屠体の長さ、ロースの太さ、ハムの大きさ、肉の品質など)

(76. 和島)

表4 雑種豚において利用される雑種強勢効果

形質	一代雑種	三元雑種 (一代雑種♀×純粋種♂)
一腹子数(生時)	-	(+)
"(8週令)	+	(+) +
一腹総体重(8週令)	+ +	(+) + +
飼料要求率	±	±
屠体形質	-	-


(注) (+)印は母である一代雑種に現われた雑種強勢効果 (養豚全書)

母豚は一代雑種であり、強健性、繁殖性の効果が期待できる。一代雑種に交配するA又はB品種の♂は、初めのA又はBと異なる系統のものを用いる必要がある。
 ○三元雑種
 $A♀ \times B♂$
 $F_1 A♀ \times C♂$
 3元雑種A・B・C
 母豚が一代雑種であるため、母豚の強健性、連産性、産子数、子豚の発育性の雑種強勢効果が期待できる。
 A品種には繁殖能力の高いものを、C品種には肉質の優れたものを用いるとよい。肉質の点ではHが優れている場合が多く、最後に交配する雄系品種として用いるのに適している。
 ○輪番交雑
 $A♀ \times B♂$
 $F_1 A♀ \times C♂$
 $X_1♀ \times A♂$
 $X_2♀ \times B♂$
 $X_3♀ \times C♂$
 母豚はつねに雑種であるため強健性は期待できるが、各段階の系統の管理と交配種の確保が必要である。雄系のみを導入を図れば回転できるが、三品種間のみの交雑であるため普通の三元より若干劣る場合も生じる。

以上のように多くの交雑方法があるが、

これを応用するに当たっては、①交雑方式の特徴や各品種(系統)の能力特性を十分につかんでおくこと。②優れた遺伝的形質を持った純粋種豚を確保すること。③自己の経営条件に合った交雑方式をとることが大切である。
 またできるだけ品種や交配方式を単一化し、多くの型を取り入れないことが繁殖管理や生産豚の規格統一の上で得策と考えられる。
 肉豚生産の場合の交雑方式として本県で望まれる型は、
 一代雑種の場合 LH(Lが♀、Hが♂)
 三元雑種の場合 LW・H、LD・H
 が試験成績や多くの実際例から優れているものと考えられる。
 雑種利用の場合に交配する種雄の重要性は極めて大きい。三元雑種の場合には肉質の改善のみでなく、産肉性とともに繁殖性への配慮も必要であり、衛生面でも病気の持込み防止に注意を払いたい。

牛の健康、緑の牧草は
タンカル で良い草を!
 効めの早い タンカル肥料
 持続性のある 土改1号, 2号



足立石灰工業株式会社
 岡山県新見市足立 TEL (08679) 5-7111

「養豚」攻めと守り

スポーツ、囲碁、将棋など、より高度な技術力を駆使し勝負をかけるゲームはすべて攻・守にバランスのとれていることが必要であり、最後には執念がものをいふ。

さて、養豚経営においての攻守のバランスはいかがであろうか。

年々大きな伸びをみせてきた豚肉の消費も、近年ようやく所得弾性値の低下傾向がうかがわれ、今後の養豚経営はさらに厳しさを加える情勢である。すなわちこれまでの規模拡大、過密飼養など攻め一本の経営から、基本的な経営要素をあらためて見なおし、量より質へと守りにウェイトをおいた経営内容の充実を進めなければならない重要な岐路に立たされているといえよう。

そこで養豚経営の利益を左右する要因について、大きくは攻守の分類を考慮してみると次のとおりである。

- 繁殖経営の場合**
- 種豚一頭当り子豚生産頭数の増加
 - 子豚価格の引上げ
 - 年間分娩回数増加

攻

- 飼養頭数の増加
 - 種豚飼育費用の低減
 - 子豚の損耗率の引下げ
- 肥育経営の場合**
- 肉豚一頭当り売上価格の引上げ
 - 年間肥育回転率の向上
 - 飼養頭数の拡大
 - 肉豚一頭当り育成費用の低減
 - 事故率の低減

守

みなおしの要素としては、①繁殖豚の質の向上、②優良純粋種豚の確保、③繁殖性能の向上、④低能力豚の淘汰、⑤事故率の低減、⑥衛生管理(畜舎消毒の反復、きれいな種豚の確保)、⑦肉豚上物率の向上、⑧育成管理技術の向上(飼料費の低減)、⑨記録、⑩生産費の低減、⑪銘柄豚の生産出荷(地域的な協力体制の強化)などがあげられる。

(養豚部 片山)

畜産コンサルタント指導簿より

ジャージー飼養優良事例

昭和五三年の酪農は購入飼料の値下り等で経営的に好材料が多かった。しかし我々が個々の経営にあたり、ホルスタイン種の経産牛一頭当り乳量は四千kg台から六千kg以上と幅が広く、経営的にも大きな差がある。ホルスタインの経営事例については、種々の雑誌等で読む機会も多いので、ジャージー種の優良経営事例について紹介する。

X氏の経営

赤山地域に位置し、両親とX氏(二四才)の三人の労働力で、成牛換算頭数三六・一頭を飼養し、飼料圃九ha(うち四haは借入地)を有する専業経営である。

◆乳牛飼養

乳牛の飼養状況は表一の通りである。ホルスタインが三・二頭とジャージーが二五・六頭(経産牛で)という割合である。経産牛の平均産次数は五産は、やはり品種の特徴が出ており、ホルスタイン地区では考えられない平均産次数である。一番の古顔は、昭和三八年二月五日生ま

表1.

頭数	頭数	回数	隔年	率	量	量	積
36.1	28.8	5.0	12.7	12.3	7.10	4,203	2,100
頭数	頭数	産次	分娩	成牛	乳牛	1頭当	粗飼料
頭数	頭数	産次	分娩	成牛	乳牛	1頭当	粗飼料
頭数	頭数	産次	分娩	成牛	乳牛	1頭当	粗飼料
頭数	頭数	産次	分娩	成牛	乳牛	1頭当	粗飼料
頭数	頭数	産次	分娩	成牛	乳牛	1頭当	粗飼料
頭数	頭数	産次	分娩	成牛	乳牛	1頭当	粗飼料
頭数	頭数	産次	分娩	成牛	乳牛	1頭当	粗飼料
頭数	頭数	産次	分娩	成牛	乳牛	1頭当	粗飼料
頭数	頭数	産次	分娩	成牛	乳牛	1頭当	粗飼料

(注) ○成牛換算一頭当り

れの子である。この調査期間での産乳牛の平均産次数は、一産七産(四頭)であった。
 経産牛一頭当り産乳量は四二〇三kgであるが、日種が六〇〇kg出したとしても、一産の一頭当り乳量は四〇〇kgとなり非常に良好である。この好成绩のうらには、乳用牛群能力検定事業による、一頭毎の能力把握と、それに合わせた個体管理ができていたことが一番のポイントになっている。

◇自給飼料生産

自給飼料の生産及び利用状況は表二の通りである。自給飼料関係の機械は三戸共有で使用しており、不足するものについては農協有のものを利用している。既設のサイロの外にスタック・トレンチサイロを利用しているが、今後サイロの通年給与が課題である。

飼料圃は昨年より「台帳」を作り、計画と実績が一目でわかり、収量等についても坪刈を実施し、自給飼料の生産性を検討している。×氏の利用した自給飼料について、T.D.N単価を調べると、六五・五円であり、この内自家労賃が三三・九円である。現在の流通乾草が五五円とするとT.D.N単価は一一〇円となり、×氏の場合は約半分となっている。

◇経営成果

経営の成果は表三の通りである。乳飼比が三二％(育成牛を含む)と低いのは、自給飼料の面積が多いためとも言えるが、乳牛一頭当りの泌乳能力が高いことも見落してはならない。所得率は四七・二％と非常に高い。この内事業内所得は約四〇％で、七割余りは牛の処分益、その他である。よくジャージーは処分時に高く売れないので、経営的に損ではないかと言われるが、耐用年数が長いので、×氏の場合も、一頭一頭当り六万円の処分益が出ている(四頭平均)。

表 3. ○印 成牛換算1頭当り

乳 飼 比	31.0%
○購入飼料費	133,117円
○償却費(自給飼料関係を除く)	37,447円
○借入金(期末)	187,704円
所 得 率	47.2%

◇まとめ

×氏の経営についての改善点は、サイロ増設による通年サイレージ体系が残されてはいるものの、労働力、飼養頭数、自給飼料がうまく組み合っていることにより、経営成果が上がっている。

また、記帳が、経理は勿論、乳牛飼養状況、購入飼料の品目・量、自給飼料生産状況にまでおよび、前年の成績検討が、すぐに新しい日々に生かされている点も大きなポイントである。

赤山地区のジャージーは、赤山酪農協が中心となり、乳量検定、保留牛制度により、改良が進められる一方、八束農協の育成場での育成と、体制が整っている。

表 2.

作物名	面積	52.7	8	9	10	11	12	53.1	2	3	4	5	6	
混播牧草	100a	→ ←												放牧利用
トウモロコシ	50	← →												青刈給与
ソルゴー	50	← →												青刈 "
永年牧草	700	← →												乾草 "
		← →												青刈 "
		← →												サイレージ "
カブ	40	← →												

主な機械		自給飼料 T.D.N 1kg当の内訳			
トラクター	60 PS	} 2人共同	労働費	33.9円	52%
"	28 PS		肥料代	10.3	15%
ハーベスター	3台		種子代	1.2	2%
トレーラー	2台		償却費	12.3	19%
デスクモアー	1		修繕、農具費	5.3	8%
テッダ	1		燃料その他	2.5	4%
			計	65.5円	

ひつじどし

現在の乳価制度では、基本乳価が高くなり脂肪格差は据置かれているためホルスタイン牛よりも不利ではあるが、立地条件、飼養管理の改善で、ホルスタインにひけを取っていない。

以上、経営の教科書に書いてある『経営』土地+労働力+資本』のような経営(言いかえれば、土地+自給飼料生産+労働力+無理のない、資本+高能力牛)を紹介した。

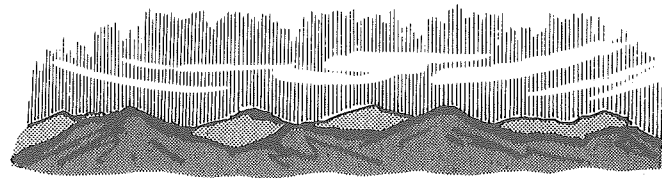
昭和五四年はひつじ年ということですが、現在では、少なくなった羊ですが、「畜産大辞典で調べてみました。」

◎起源

羊の起源については、かつてダーウィンが「メン羊の祖先を尋ねるのは絶望と徒勞である」と言ったそうです。わが国では、野生羊が生息した痕跡はなく、朝鮮半島を経て九州南部にはいったと言われていますが、牧畜としての羊は、明治二年にアメリカよりメリノウール八頭が輸入されたのが始まりです。

◎頭数

明治三一年には二千頭、昭和三年一万五千頭、昭和三年九一万五千頭にもなりましたが、昭和五年一月一日の統計では、一万二千頭となっています。県内では昭和五年一月一日で、三〇頭で、なかなか見ることも出来ません。



フレイク飼料

- 肥育牛・乳牛用に抜群
- とうもろこしを蒸煮し澱粉をアルファ化した肥育牛、乳牛の新しい飼料です。

中国物産株式会社
笠岡市笠岡 TEL 08656 ③-1110

“あなたの畜産経営に奉仕します”

新発売飼料フレイクフィード(乳牛、肉牛用)
配合飼料、コーンジャム(とうもろこし胚芽油粕)、脱脂大豆、菜種粕

カトウ 加藤製油株式会社

大阪・岡山・名古屋・高松・下関

本社工場	大阪市此花区梅町2丁目1番16号	〒554	電話	大阪(06)462-0101
岡山工場	玉野市築港5-9-6-3	〒706	電話	玉野(0863)31-2222
名古屋工場	名古屋市港区港陽1丁目1番82号	〒455	電話	名古屋(052)651-7411
高松工場	高松市郷東町字乾新開792-10	〒760	電話	高松(0878)82-1888
下関営業所	下関市中之町10-3	〒751	電話	下関(0832)22-8141

ヨーロッパ酪農畜産農業 視察団に参加して

畜産会々長 花尾省治

オランダ入り

デンマーク(オークス)から一行は三台の貸切バスに分乗し、西ドイツ(ハンブルグ)を経由してオランダ入りをしま



風車

した。オランダは日本にとってゆかりの深い国であります。ウイリアム・アダムス船長のオランダ船が漂着(九州・別府湾)したので始まりで(ウイリアム・アダム

スは徳川家康に仕えた)、鎖国の間も長崎出島を通してオランダとの通商が行われました。

オランダは東はドイツ、南はベルギーに接し、北は北海に面しています。国土面積は四万一千七、人口は千三百二十万人で、人口密度は世界でも最も多い国と言えます。(九州より、やや小さい程度)国土の四分の一が、海面以下にあり、一番低い所では、マイナス七m近い所もあり、国全体が殆んど平坦地のため土地利用には非常に恵まれています。気候もメキシコ暖流の影響もあって比較的温暖です。

オランダは干拓事業によって国土を広げたのですが、干拓の始まりは十二世紀頃といわれ、風車の発明により、これが干拓の立役者(排水のための)であったといえます。オランダ人は干拓事業によって自然との闘いがなされ、常に警戒の手をゆるめることができません、一つ間違ふと国土の半分以上が水びたしになるためにこの苛酷な自然条件が、オランダ人を忍耐強い民族にしたと言われます。

オランダと言えば、干拓事業であり、干拓のために考え出された、風車、園芸作物のチューリップ、クロッカス、木靴等が有名です。チューリップは国花とされていますし、園芸国際市は世界一です。今は観光名物となっている風車は、現在、八〇〇位あって、その三分の一は、

動力用として用いられています。私達が見たものは、想像以上に大きなもので、風車がゆるやかに回転し、風車の中が住居になっており、家族が住んでいました。昔はこの風車が通信用に使われたとのことですが、今は観光用として保存維持されています。また名物の一つである木靴(クロムプ)作りを見学する機会を得ましたが、一人の若者が機械を使って作っていました。オランダは低湿地であるのでポプラの木が多く植えられており、美しい並木をつくっています。木靴は、おそらくポプラ材と思いますが、割合やわらかい木質の木で作っています。

オランダ酪農

この国の農産物は、園芸作物としての、チューリップ、クロッカス等の花の球根、果樹が栽培されていますが、酪農はこの国にとって農業の基幹作物で酪農製品(主にチーズ類)を輸出しています。農業総生産高一五〇億グルダのうち、酪農が全体の六八%を占めています。機械化が進み合理的経営が行なわれ、EC諸国の中でも高い生産性となっています。酪農は、北部フリースランドと干拓地を中心に発展しています。オランダはご承知の通り、ホルスタインフリージヤンの原産地ですが、現在飼養されている牛は、オランダフリージアン(七〇%)とMouze・Rhine・Yssel(二八・二%)、クロニンゲン(一・

八%)となっています。

一八六八年に農協酪農工場を設立して以来一八八二年(十四年後)には六三二の工場を設立しています。オランダの農協は自主性によって設立されただけに同志的結合の強いものとなっています。

私達はアイゼル湖と外海を遮断する有名な大干拓堤防を視察見学をし、又、アムステルダムでは干拓博物館へ行き、干拓の方法歴史について映画なり、政府の干拓局の方から説明を聞くことができました。

大干拓堤防は北海とアイゼル湖とをこの大干拓堤防で遮断している最前線とも言えます。この堤防の中は一〇〇m上は立派な道路が通っています。干拓という極めて息の長い事業に驚きました。

最近の埋立干拓事業の一つに、ソイデル海干拓が行われています。この干拓を行うに至った原因はソイデル海を囲む堤防の暴風雨による決壊とドイツ軍による破壊と、今一つは第一次世界大戦の際の食糧不足による、食糧増産からこの計画が実行にうつされたと言われており、干拓大堤防の石は、オランダに石がないため、スイス・ドイツから運ばれたものであると聞かされました。

干拓は海水を干して淡水化を図り、その跡地にヨシ、スキ等の種を飛行機でまき、ヨシ・スキが育つと、これに火をつけて焼き払い土壌づくりをして干拓

地に仕あげます。ヨシ、スキの育っている干拓地には渡り鳥が住みついているところを飛びかき、旅情をなぐさめてくれました。

スクーン農場

(基礎調査全路協)

この農場は父親と二人の息子の共同経営となつています。

この干拓に入植してから七年目を迎えています。三年前までは、当時五〇才の経営主と妻の二人だけの労力でしたが、昨年から長男が農業者大学を終え、次男もこれに参加し、今では経営主と妻それに二人の息子と、二人の娘という構成であります。

飼養頭数は経産牛一〇〇頭、育成三〇頭規模であり、量よりも質に重点を置いて個体改良に努力しています。一頭当り乳量は七、一〇〇kg程度となつていて、高い水準であるといえます。

施設も八頭同時搾乳のミルクングパーラーとバルククーラー等、各種の機械も完備しています。

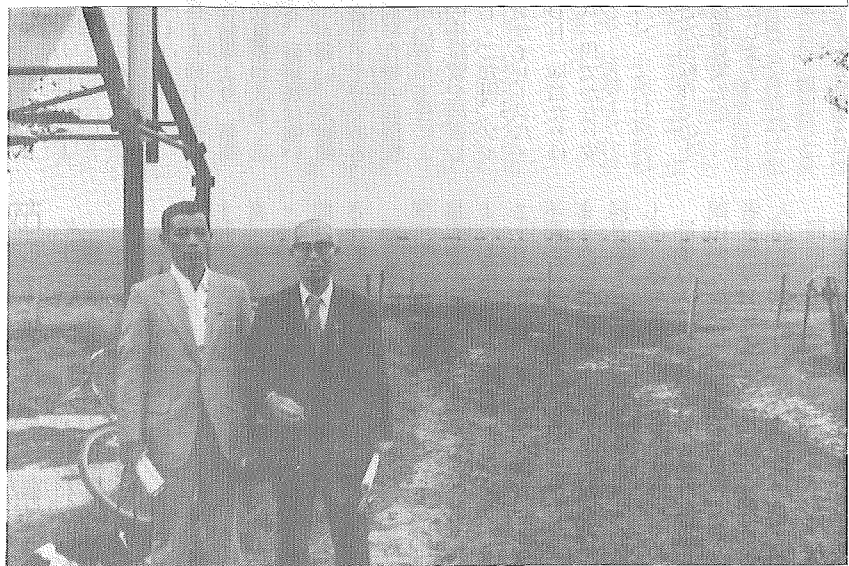
オランダでも麦ワラを大切に敷ワラに使っています。建物の周囲は広々と草地在が広がっていて、牧草は年四回刈です。サイロは立派な大型スチールサイロの外にヘイタワーが設けてあります。大型スチールサイロから、牛舎にかけてセンタードライブフィーダーが走っていて、これでサイレージを生牛舎のなかに送って

います。ヘイタワーは雨や台風が少ないこの国独特のもので、生乾きの草をつみあげていき、その高さによって柱で吊るしていき(滑車使用)屋根を段々と上げていくやり方で、まんなかは通風のためあけてあり、下方よりセンターファンによって送風し、上へぬくやり方です。

スクーン氏の家を外から見るとそれ程大きく思わぬが中に入るとなかなか整理整頓され、中は大きく、特に窓が大きく、リースのカーテンをつけ窓辺には草花が咲き乱れ近くにもバラ等の花がつけられていました。ゆとりある酪農家と見受けました。

アムステルダムは北のベニスといわれ運河の都でもありません。オランダ独特の静けさをひそめていました。

つづく



スクーン農場

酪試ファーマーデー・酪農研究会

秋晴れの十二月十一日、午前九時半より、県酪試場内における、各種大型農機具の発表展示会を皮切りに、参会者約百名の出席を得て終日熱心に研究討議がなされた。

今回の研究課題は「水田利用再編対策と自給飼料の確保」であった。本年度より十一年計画で再出発した水稲転作であるだけに、本年度の成果を見極められた上で来年度の方向に如何に反映させるかが重要な課題になっているだけに、終始真剣な対応がなされていた。

酪農試研究報告

1. サイレージの輸送容器の開発
酪試 森専門研究員
2. (1) 生麦わらのサイレージの乳牛への利用
2. (2) イタリアンサイレージと青刈ソルゴーの組合せ効果
酪試 小福田技師

輸送用ミニバグサイロとしてテトロ製のもは、畜産農家へ搬入して一週間に利用すれば実用化できるところであり、生麦わらサイレージは現物で一・五kgを採食し、し好性もかなり良く、補助飼料として活用できること

結果であった。また、イタリアンサイレージに青刈ソルゴーを乾物で二割程度を組合せると、乾物の摂取量を増加させたが、乳脂率はサイレージ単味の方が高いことが明らかになっている。

二、シンポジウム

テーマ「水田利用再編対策と自給飼料の確保」

- (1) 水田利用再編対策について
畜産課吉田主幹より、本施策に対する基本的な考え方として、畜産農家個々の対応よりも、さらに飛躍して耕種農家との結びつきによる生産組織の醸成が急務であり、飼料銀行を足掛りとして地についた組織化を図りたいとのことであった。
- (2) 水田利用による飼料栽培の現状と問題点
岡山普及所邑久支所の田淵主任より、長船町の水田酪農の現状の紹介があり、水田地帯での酪農とくに飼料自給状況とその集団化、組織化(朝日農業賞受賞集団)からの問題点を、つきのとおり指摘された。

- (ア) 低湿田が多くその排水を集团的に行なう必要があること。
- (イ) 転作田を定着させるためには経営にプラスになることが条件となるが、飼

料作の場合、飼料生産並に給与計画に組み入れられねばならない。

- (ウ) 耕種農家と畜産農家の提携による措地契約とその集団化をはかること。
- (3) 飼料用青刈稲(ブリティッシュホーンジュラス)の栽培について
井等普及所、田中主任より約十一年に亘る等閑田干拓での試作結果より、草高一七五cm、生草収量は収量差が大きく三・三〇五・六もである。耐病性は強いが耐虫性(マイチュウ)が弱い。又耐倒伏性も弱く、品種の固定も不十分である。

- (4) 転換田における飼料作物の経済性
津山普及所久米南支所の宮田主任による転換田での飼料作物の生産費を調査した結果、一kg当り七・二九円、ソルゴー五・六八円、コーンサイレージ八・八一円であったが、TDN一kg当りは平均六〇円、全草平均八一円、かなり安く仕上がっている。
- (5) 特別講演
「粗飼料の平衡給与と水田転作での生産技術」草地試験場 飯田克実先生
内容は次号で紹介いたします。

故藤原若彦氏叙勲 勲六等単光旭日賞

去る十月二十九日タイ国内で交通事故により急逝された故藤原若彦氏(県畜産課主幹)の生前の数々の功績に対し、この度、十一月二十四日の閣議において、勲六等単光旭日賞の叙勲が決定され、同二十七日、県知事より未亡人藤原一女士に伝達されました。

藤原さんは、本年四月、わが国のタイ国に対する技術協力の一環として、国際協力事業団がその対家畜衛生改善計画によって派遣されておられたのですが、さる十月二十二日、タイ国南部ブケットで不運にも交通事故にあわれ、意識不明のまま入院加療中でしたが、その効もなくなり、同月二十九日ついに不帰の客となられました。

葬儀は十一月九日、藤原寺で藤原家、岡山県、国際協力事業団の合同葬が参列者多数のもとに盛大に行なわれ、故人のご功績を偲びあわれました。

藤原氏は昭和二十四年十一月十五日県千屋種畜場勤務を皮切りに爾来二十九年の長い間、県畜産振興のため、家畜の保健衛生のため精励戴き、益々活躍戴かねばならぬ矢先のことであり、その死は惜しみても余りあるものでした。心からご冥福をお祈りいたします。

和試のハイライト

理想肥育牛飼養の一指標

技師 小 椋 雅 弘

和牛(去勢牛)の肥育は、高級肉の高い市場性等から近年理想肥育を指向する農家が増加する傾向にあります。

しかし、その飼養方法につきましては従来からの濃厚飼料多給あるいは飽食型の飼養が多く、生体重五〇〇kg以降における増体の停滞等が問題となっています。これを解決する一つの方法として、肥育前期に良質粗飼料を多給することが考えられます。また、去勢牛の若令肥育については日本飼養標準が作られておりますが理想肥育の標準はありません。そこで、岡山県和牛試験場ではこの理想肥育牛飼養に対する一つの飼養指標をみいだすために、生後約八か月令で体重二四〇kg程度の黒毛和種去勢牛を用い肥育前期に粗飼料を多給(可消化養分総量・TDNで粗飼料六〇%)する区と濃厚飼料を多給(同濃厚飼料八〇%)する区をわゆる慣行区を設け五、四、六日間(肥育前

・中・後期各六か月の一八か月間)の肥育を試みましたので、その成績の概要を紹介いたします。

なお、施設につきましては飼育期間中自由な運動ができるように両区ともパドック(約五五m)を併設した約二九mの開放式追込牛舎を使用し群飼としました。

試験の方法

- 一、供試牛
供試牛は前述しましたように、試験開始時が七、八か月令で体重、体高その他の発育が正常で体型、資質、栄養状態とも中以上の黒毛和種去勢牛一六頭を用いました。
- 二、試験期間
昭和五十一年一月二日より昭和五十三年五月二日までの五、四、六日間とし、それを肥育前・中・後期(各一八二日間)の三期に区分しました。

三、試験の構成と飼料の給与

肥育前期に粗飼料を多給する粗飼料多給区と慣行区の二区を設けそれぞれ八頭の群飼としました。TDN給与量は全期間日本飼養標準(若令肥育)の一日当り平均増体量(DG)一・〇kg所要TDNの二〇%を給与しました。粗飼料と濃厚飼料の割合はTDN量で肥育前期は粗飼料多給区が粗飼料六〇%、濃厚飼料四〇%、慣行区が粗飼料二〇%、濃厚飼料八〇%の給与としました。肥育中期、後期は両区とも同割合とし、中期は粗飼料二〇%、濃厚飼料八〇%、後期はそれぞれ二〇%、九〇%としました。

四、供試飼料

濃厚飼料は和牛産肉能力検定用を使用しました。粗飼料はオーチャードグラス主体の混牧生草、同乾草、グラスサイレージ、稲わら等を給与しました。飼料の給与は濃厚飼料と粗飼料は別して、定量を朝夕の二回に分与しました。水は自由に飲めるようにし、炭カル、鉍塩及び赤土を常置しました。

成績の概要

- 一、増体成績
全期間の増体量は粗飼料多給区が三九七・九kg、慣行区が三九二・六kgであり、その一日当り平均増体量はそれぞれ〇・七三kg、〇・七二kgで両区の大差はりませんでした。

期は粗飼料多給区が二二・三〇kg、慣行区一六・二〇kgとやはり濃厚飼料の多い慣行区がよい増体を示しました。中期は粗飼料多給区一五二・六kg、慣行区一三〇・〇kgとなり前期増体量の少なかつた粗飼料多給区の増体が顕著でした。後期になりますと粗飼料多給区二二三・三kg、慣行区一〇〇・六kgと両区とも増体に鈍化がみられましたが、粗飼料多給区の方がよい傾向にありました。

- 二、体主要部位の発育状況
体高、胸囲、胸深、臍巾の発育状況についてみますと、いずれの部位についても体重と同様に肥育前期は慣行区がまさり、中・後期は粗飼料多給区がよい傾向を示しました。全期間については体高で粗飼料多給区が胸囲で慣行区がわずかながらまさりましたが、胸深、臍巾は全く同じでした。
- 三、飼料及び養分の摂取量と要求率
濃厚飼料の二頭当り摂取量は全期間で粗飼料多給区が三四五〇・二kg、慣行区が三九二三・六kgであり一日当りそれぞれ六・三三kg、七・一九kg摂取しました。粗飼料については乾物換算で粗飼料多給区が二二五・四kg、慣行区九九六・八kgであり、一日当りそれぞれ二・二九kg、一・八三kg摂取しました。肥育期別に一日一頭当りの摂取量をみてみますと、前期は給与割合の違いがそのままあらわれ粗飼料多給区は濃厚飼料三・〇一kg

粗飼料 (DM換算) 二・八四〇、慣行区は濃厚飼料六・一八〇、粗飼料一・四一〇とした。中期については、粗飼料多給区は濃厚飼料七・九八〇、粗飼料二・五二〇、慣行区は濃厚飼料七・九七〇、粗飼料二・四二〇であり両区とも同程度の摂取量であった。後期になると、粗飼料多給区は濃厚飼料七・九六〇、粗飼料一・五二〇、慣行区は濃厚飼料七・四〇〇、粗飼料一・六四〇となり粗飼料多給区は中期に引きつづき濃厚飼料をよく摂取しましたが、慣行区はやや摂取量の低下がみられました。

飼料の要求率 (1kg増体に要した飼料の量) については粗飼料多給区が濃厚飼料前期四・五〇kg、中期九・五二kg、後期一・七五kg、全期間八・六七kg、粗飼料前期四・二四kg、中期三・〇〇kg、後期二・二四kg、全期間三・一四kgで慣行区は濃厚飼料がそれぞれ六・九四kg、一・一六kg、一三・四〇kg、九・九九kg、粗飼料が一・五九kg、三・三九kg、二・九七kg、二・五四kgとなっています。養分要求率については全期間で粗飼料多給区がTDN七・九八kg、DCP一・〇二kg、慣行区がTDN八・六一kg、DCP一・一三kgと慣行区が高い要求率を示しました。肥育期別にみても肥育前・中・後期いずれの期も慣行区が高い要求率となっています。

四、枝肉成績

枝肉成績については表に示しましたとおりですが、粗飼料多給区は慣行区とくらべて枝肉歩留りがやや劣り皮下脂肪がいくぶん厚い傾向にありましたが、ロース芯の面積と脂肪交雑状況、肉のきめ、しまり及び色沢は良好であり、枝肉全体としての品質は慣行区よりもすぐれていました。

五、肥育差益

一頭当りの肥育差益は粗飼料多給区が一五五〇円、慣行区八九〇円と粗飼料多給区が六六〇円多くなっています。これは粗飼料多給区の方が飼料費が約二四〇円少く、販売金額が約三九四円高かったことによるものです。

まとめ

近年理想肥育を指向する農家が増加する傾向にありますが、その飼養方法については依然として肥育初期から濃厚飼料多給あるいは飽食型の飼養が多く、生体重五〇〇kg以降における増体の伸び悩み等が問題となっています。これを解決し理想肥育牛飼養に対する一つの指標をみいだすために肥育前期に粗飼料を多給する飼養方法と従来の濃厚飼料多給あるいは飽食型のいわゆる慣行法を比較した結果次のような成績を得ました。

まず、増体については肥育開始後四二〇日 (六〇週・十四か月) 生体重五六〇程度までは慣行法の方がよい増体を示し

表：枝肉成績

項目	区別	粗飼料多給区		慣行区	
		粗飼料多給区	慣行区	粗飼料多給区	慣行区
終了時体重①	(kg)	64.09	63.17		
屠殺時体重②	(kg)	58.90	59.20		
枝肉重量③	(kg)	38.60	39.29		
枝肉歩留③÷①	(%)	60.2	62.2		
"	③÷②	(%)	65.5	65.9	
脂肪交雑状況	(+)	4.0	3.4		
ロース芯の面積	(cm ²)	54.3	51.9		
皮下脂肪の厚さ	(mm)	21.9	19.7		
"	胸	(mm)	30.6	25.9	
"	腰	(mm)	19.8	18.1	
枝肉規格		特選6, 極上2	特選2, 極上3, 上1, 中1		

注：7～8肋骨間断面で測定

ましたが、それ以降になると慣行区の伸び悩みがみられ逆に粗飼料多給区が慣行区を上廻って増体しました。

次に、飼料及び養分の摂取量と要求率については、慣行区が肥育後期になって濃厚飼料摂取量の低下がみられたのに対し、粗飼料多給区は中期と同程度の摂取量であった。要求率では濃厚飼料は慣行区が高く粗飼料は粗飼料多給区が高くなりましたが、養分要求率はTDN、DCPともに慣行区が高くなっています。

また、枝肉については粗飼料多給区の方

方がやや良い成績でした。これらのことから肥育差益も粗飼料多給区の方が多くなりました。

このように肥育前期に粗飼料を多給する飼養方法は、従来の濃厚飼料多給あるいは飽食型の飼養方法にくらべ生体重五〇〇kg以降の増体の停滞が少なく、飼料効率も良いと考えられます。したがって生体重六五〇kg以上を目標とする理想肥育においては、肥育前期に良質粗飼料を多給し適度の運動をさせる飼養方法が適していると考えられます。

盆栽あれこれ

盆風人

樹形と鉢 (その一)

盆栽美をあらわすのに鉢は切り離せない。鉢を選ぶ場合、樹形と鉢形とのつりあいを考えねばならない。

各自の好みの鉢を選んでもらえばよいが、一般的な原則を知っておかないと盆栽美が発揮できない。

直幹

真直ぐ立ち上っている姿で、これに向く鉢は長方形か、楕円形で幹の太いものは深い鉢。細い幹は浅い鉢を使用する。おとなしい盆栽は鉢の縁のない鉢が長く、幹の特に細いものは丸鉢が好ましい。鉢の色は松は茶色、雑木類は青色等色色鉢を使用すると良い。



直幹

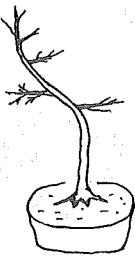
斜幹

強い風に吹かれて斜めに傾いた姿で海岸や傾斜地にみられる形である。これに向く鉢は正方形か丸鉢がよろし

模様木

幹が真直ぐでなくて、右に曲がり、左に曲がり乍ら伸びている形である。模様木で普通に使用されるのは、直幹のときと同じように角鉢か、楕円鉢、丸鉢が良い。あまり深鉢を使用しないこと。深鉢は安定感がなくなる。細い幹のもの鉢のふちの無い方がよい。

幹に力のある樹なら縁が鉢の外側にあるものを使用すると盆樹に重みを感じられる。



懸崖・半懸崖

風の強い斜面や断崖に生えているため幹や枝が上に伸びずに根元より下方に垂れ下がっている樹形である。

懸崖は幹、枝の落している姿を助長させるために深い高鉢を用いる。

半懸崖は角型、丸型の鉢を用いてもよい。



懸崖

半懸崖

どんなフォーレージでもOK。
高中低水分サイレージから
乾草まで。

移動する飼料調製機

αフォーレージスタッカー

機能とご活用法

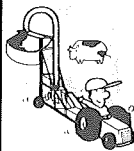
- ①あらゆるフォーレージを調製できます。
- ②どこへでも移動します。
- ③放牧期間を延長できます。
- ④大型システムのロスをおぎなえます。
- ⑤稲わら堆肥もかんたんにできます。
- ⑥農協から借りることもできます。

圃場切断

スタック作業

給与

を整理するフォーレージスタック・システム



長瀬産業(株)機械部指定

大阪アルファサービス株式会社

〒550 大阪市西区新町南通1丁目3番地 TEL (06) 541-0913

(製造元)



畜産の未来をひらく……

金子農機株式会社

●本社 / 〒348 埼玉県羽生市西2丁目21-10 ☎0485(61)2111(代表)
●営業所 / 北海道(岩見沢)・秋田・東北(仙台)・新潟(長岡)
●大阪・岡山・九州(久留米・福岡)
●事務所 / 東京・札幌 ●分室 / 宮崎

岡山県指定生乳生産者団体

岡山県酪農農業協同組合連合会

会長理事 花尾省治

岡山市磨屋町9番18-301号 電話(岡山)22-2779

良質生乳生産のために

乳固形分の向上を!!

1. 飼料の栄養バランスと粗飼料の乾物が不足しないよう給与しよう。
2. 高温・多湿は大敵です。
3. 乳房炎・肝てつなど疾病の防除をはかろう。
4. 乳脂肪・無脂乳固形分の高い牛を選定しよう。

岡山県酪連乳質改善協議会

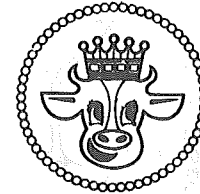
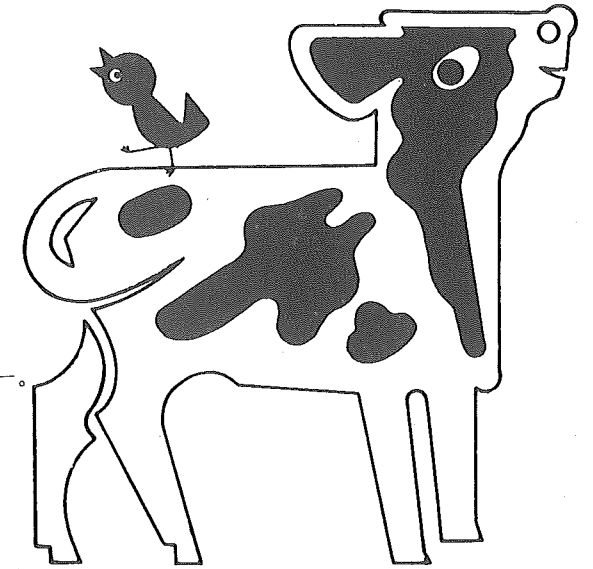
乳は国産 エサは全酪

団結は力!
系統利用は団結の象徴

最高の水準をゆく全酪連乳用子牛育成体系
(乳牛の飼料は専門の全酪連におまかせ下さい)

主要取扱品目

専管, 増産ふすま, 外国大麦飼料。
カーフトップ, 脱粉飼料, カーフスターター。
幼牛用, 搾乳用配合飼料。
その他酪農用飼料資材全般。
市乳, バター, チーズ, 練乳, 粉乳。



日夜酪農民の利益増進に奉仕する酪農専門農協!
全国酪農農業協同組合連合会

近代農業化のための建築を

(株)石津建築設計事務所

岡山市天瀬南町3-9 TEL 22-7023

あとがき

明けましておめでとうございます。
新しい年を迎え、私共も、皆様の「岡山畜産便り」をめざし、さらにご満足いただける情報をお送りしなければならぬと決心いたしております。これまでご執筆いただいた方々に厚くお礼申し上げますとともに、本年も多くの方々にお世話にならねばなりませんので、なにとぞよろしくご支援下さいますようお願いいたします。
例年にならぬ、第三回気密サイロサイレーシ共励会を一月下旬に開催いたします。本年は会場を南部に移して行ないます。
おつてご連絡します。

岡山畜産便り (一月号)
第三十巻 第一号
(通巻第三百三三号)
昭和五三年十二月二十五日
発行人 花尾省治
編集人 石井敏雄
発行所 岡山市磨屋町九十一番
岡山県農業会館内
岡山県畜産会
電話・岡山②八五七五番
振替・岡山 八五七五番
印刷所 岡山市丸の内二一
ふじや高速印刷所
電話・岡山④四九五一番
定価 二部一八〇円(送料共)